

平塚駅周辺地区将来構想（素案）

2024年（令和6年）8月

はじめに

将来の平塚駅周辺地区は…

ヒアリングにより
企業のニーズを確認
しました

企業連携



市内企業がまちなかで
商談、コンベンション

働く



子育て世代が、保育施設の
近くでリモートワーク

ヒアリングにより
子育てしながら
働けることのニーズ
を確認しました

起業



アクティブシニア等が
チャレンジショップを
活用して起業

市民アンケートで
当該地区で起業
したい意向を持つ
市民は約2.7%

健康づくり



市民がみんなで集まり体操
医療施設で健康診断

市民説明会等で
健康づくりに関す
る提案があり
ました

市民活動



市民活動団体のメンバーが
フリースペースで活動
団体間の交流会を開催

学習



学生が放課後に、
まちなかの
フリースペースで自習

学生が集まり、多様な
活動が生まれる拠点

放課後、
たくさんの学生が
平塚文化芸術ホール
で学習しています

企業連携、リモート
ワーク、起業し
たい人がチャレン
ジできる
仕事の拠点

ウォーキングや体操
に活用できる公共空間

歩いて楽しく
買物・飲食できる
商店街

飲食



市民や就業者が
買物の合間にランチ
仕事帰りに飲み会

買物



多くの市民等が
休日にゆっくりと買物
仕事帰りに歩きながら買物

市民アンケートで、魅力的な店舗
のニーズが1位でした

子育て世代が
集まる拠点

ヒアリングにより
子育て世代のニーズ
を確認しました

子育て



子ども遊ばせながら
ママ友と情報交換

来街者が立ち寄り
たくなる商店街

来街者がスポーツ観戦の
あとにまちなかに交流

レジャー



湘南ベルマーレの
試合には1万人以上
の観客が訪れます

平塚駅周辺地区でのライフスタイルのイメージ

高校生

16 : 00～

学校から
まちなかへ

○放課後、塾が始まるまで、Wi-Fiのあるフリースペースで自習・課外活動



会社員

18 : 00～

会社から
まちなかへ

○仕事を終えて駅周辺の飲食店で食事



子育て世代

9 : 00～

○託児所付のコワーキングスペースでリモートワーク



12 : 00～

○子どもを連れて
まちなかマルシェでランチ



14 : 00～

○来月に開催するポップ
アップストアのイベン
ト会場の下見と打合せ



17 : 00～

○仕事を終えて図書館で絵本
を借りて併設されている
スーパーで買い物



平塚駅周辺地区でのライフスタイルのイメージ

休日のゆったりライフ（市民、来街者）

9：00～

○まちなかに出店している
屋台で軽食



10：00～

○チャレンジショップで
クラフト体験



12：00～

○平塚にしかないお店で
ランチ



15：00～

○コーヒーをテイクアウト
してベンチで休憩



市民活動（市民、アクティブシニア等）

10：00～

○カフェで
午後の成果発表の準備



11：30～

○シェアキッチンで仲間と
調理・食事



14：00～

○コンベンション施設の
レンタル会議室で成果発表



16：00～

○日用品や生鮮食品を購入
して帰宅



※アクティブシニア： 退職後、知識やノウハウを活かして、市民活動や新たな仕事に取り組む高齢者をイメージ

平塚駅周辺地区でのライフスタイルのイメージ

起業する人（若手経営者、アクティブシニア）

10 : 00～

○チャレンジショップを活用してクラフト体験講座開催



12 : 00～

○行きつけのカフェで店主とおしゃべりしながらランチ



14 : 00～

○まちなかのフリースペースで出店に向けた打合せ



18 : 00～

○若手アーティストのライブイベントに参加



平塚駅周辺地区をみんなのリビングに！

～充実した日々の中にときめきを感じられる
それぞれが居心地のよいまちづくり～

平塚駅周辺地区将来構想 目次

序 章 策定について	 1
第1章 これからのまちづくり	 5
第2章 まちづくりのコンセプト	 15
第3章 グランドデザイン	 17
第4章 まちづくりの方針	 20
第5章 通り・エリアの将来イメージ	 28
第6章 実現に向けて	 46

序章 策定について

この章では、将来構想を策定した意味を共有するため、策定の背景や目的、構成などの概要を示すとともに多様な手法により様々な方の想いを集めたプロセスを示しています。

1

1. 策定の背景と目的

平塚駅周辺地区では、近年、近隣市や郊外への大型商業施設の出店や消費者のライフスタイルの変化等の要因により、商店街を取り巻く状況が変わり、買い物客や歩行者通行量の減少など、賑わいが失われつつあります。

このような状況に対応するため、平塚駅周辺地区の状況や関わる方のニーズを踏まえるとともに新しいまちづくりとしてデジタル化等の技術を取り入れたまちづくり(スマートシティ)や温室効果ガスの排出削減・吸収効果の増加(カーボンニュートラル)、自動運転社会等への対応などの要素を取り入れた概ね20年後の将来像(将来のあるべき姿)を示し、市と市民や事業者が共有し、持続可能なまちづくりを実現するため「平塚駅周辺地区将来構想」(以下「将来構想」という)を取りまとめました。

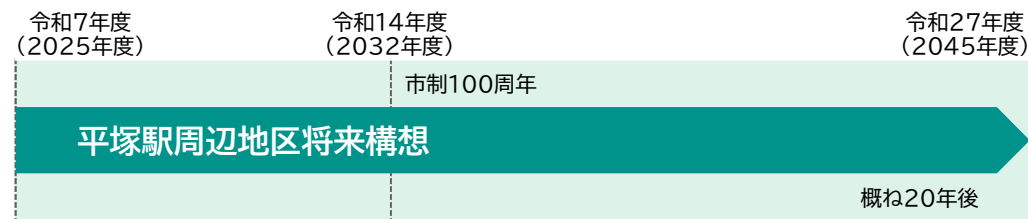
2. 将来構想の使い方

将来構想を実現するためには、従来の市主導のまちづくりだけでなく、市と市民や商業者、事業者、関係団体等が連携しそれぞれが「自分ごと」としてまちづくりに取り組む必要があります。

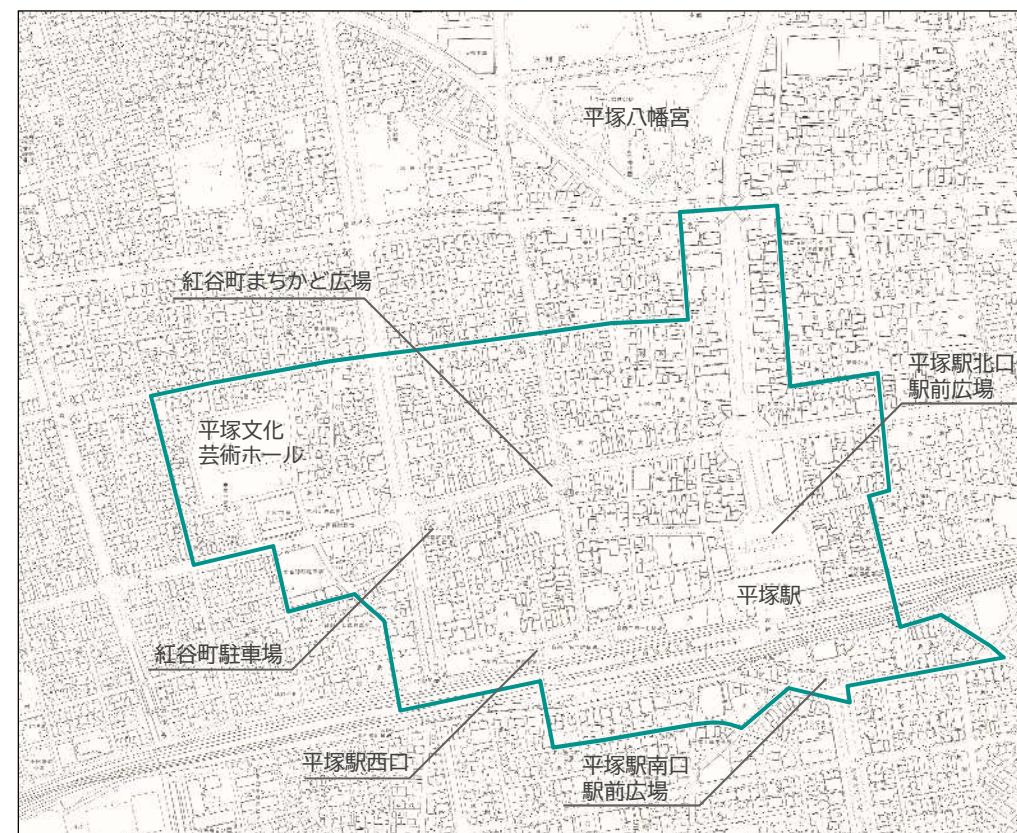
また、平塚駅周辺地区の現状を改善し、日々変化する社会情勢に対応しながら長期的にまちづくりを進めるためには、将来構想を柔軟に活用していく必要があります。

将来構想がまちづくりに関わる方々へ方向性を示し、想いを共有するツールとして活用されることを期待しています。

将来構想の期間



対象地域



平塚駅周辺地区将来構想

序章 策定について

2

3. 策定までのあゆみ

将来構想は検討段階から市民や事業者など実現に関わる人と「想い」を共有することが大切と考えました。

いままでの市が作成する計画は、データ分析や関連する市、国の取組みを踏まえ、合わせてアンケート等を実施してきましたが、将来構想では、関わる市民や事業者などたくさんの人の声を聴く機会を今まで以上に大切に考え、またそのプロセスが実現に向けたムーブメントになるよう、たたき台や素案を作成する各段階で、次のような取組みを進めました。

	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
構想策定		たたき台作成			素案作成	策定
市民参加	市民アンケート	商業者アンケート アウトリーチ ヒアリング	ワークショップ ヒアリング	アウトリーチ 市民説明会 ヒアリング	アウトリーチ 関係団体ヒアリング パブリックコメント 実施予定	
検討会議		ヒアリング	第1回 ヒアリング	第2回 ヒアリング	第3回	第4回 第5回(予定) 第6回(予定)
庁内検討	第1回	第2回	第3回	第4回 第5回	第6回	第7回 第8回(予定)

序章 策定について

4. 市民・関係団体等の参加プロセス

将来構想の作成に向け、次のように様々なプロセスでたくさんの「想い」を集めました。

■市民アンケート

令和4年度に、市民3千人を対象に、郵送配布・郵送回収でアンケートを実施し、平塚駅周辺地区へのニーズや日常生活の実態を把握しました。

■商業者アンケート

令和4年度に、平塚駅周辺地区の店主を対象にアンケートを実施し、平塚駅周辺地区へのニーズや、自身の店舗が立地する通りに対するニーズを把握しました。

■関係者ヒアリング

令和4年度、令和5年度に、平塚商工会議所、企業、子育て団体、市民活動団体、高校生、大学生、まちづくりの専門家等の様々な主体へヒアリングを実施しました。

■オープンハウスによるアウトリーチ

令和4年度、令和5年度に、市内の商業施設や公共施設において、ブース(オープンハウス)を設置しました。

令和4年度は駅前広場や道路等の各空間のイメージ、令和5年度は平塚駅周辺地区でのライフスタイル、ランドデザイン、通り・エリアの将来イメージについて意見をいただきました。

オープンハウスの様子



■ワークショップ

令和5年度に、自治会長、商店会長等を対象に、通り・エリアの将来イメージについて、自由に意見を出し合うワークショップを開催しました。

また、商工会議所と連携し、会員や関係団体を対象にワークショップを開催し意見をいただきました。

ワークショップの様子



■市民説明会

令和5年度までにいただいた意見を踏まえて、とりまとめたライフスタイル、ランドデザイン、通り・エリアの将来イメージについて、意見をいただきました。

■検討会議

令和5年度に、学識経験者や企業等をメンバーとする検討会を開催し、将来構想の内容について、ご意見をいただきました。

■パブリックコメント(実施予定)

令和6年度に、パブリックコメントを実施する予定です。

序章 策定について

4

5. 将来構想の位置づけと構成

■将来構想の位置づけ

将来構想は「平塚駅周辺地区活性化ビジョン」を踏まえて、ハード的な施策や公共空間の活用方法等を含め、まちづくりの基本的な考え方や方向性、実現手法などをまとめたものです。

まちづくり活動の担い手となる事業者等が中心となり、地域が自ら取り組むソフト的な施策をまとめた「平塚まちなか活性化ロードマップ」と連携した取り組みを進め、相乗効果を高めることで、平塚駅周辺地区の持続可能なまちづくりの実現につなげていきます。

また、将来構想で明確になったまちの将来像を実現するため、補助金や規制緩和などの支援制度をまとめた、「平塚駅周辺地区アクションプラン」を合わせて運用していきます。

将来構想の位置づけと構成

平塚駅周辺地区活性化ビジョン
(平成31年1月 平塚市)
平塚駅周辺地区の活性化に関する
市の基本的な方向性を示すもの。

平塚まちなか活性化ロードマップ
(令和3年3月 平塚まちなか活性化隊)
地域が自ら取り組むまちづくり活動
や進め方を位置づけたもの。

平塚駅周辺地区将来構想
(令和7年3月策定予定 平塚市)
ハード的な施策や公共空間の活用方法
等を含めたまちづくりの方向性や実現
手法を示すもの。

平塚駅周辺地区アクションプラン
(令和7年3月策定予定 平塚市)
将来構想で明確になったまちの将来像
を実現する支援策をまとめたもの。

平塚駅周辺地区将来構想の構成

はじめに

将来構想の導入として手に取った方がイメージや親しみを持てるように、将来「どのような地区になるのか」、「どのようなライフスタイルを実現できるのか」を示しています。

序章 策定について

将来構想を策定した意味を共有するため、策定の背景や目的、構成などの概要を示すとともに多様な手法により様々な方の想いを集めたプロセスを示しています。

第1章 これからの まちづくり

平塚駅周辺地区の現状を踏まえるとともに本市や国の動向等を捉え、まちづくりを進めるために必要な視点を示しています。

第2章 まちづくりの コンセプト

社会の変化等の将来を見据えた平塚駅周辺地区の役割を示すとともに関わる方の合言葉となるようなコンセプトを示しています。

第3章 グランド デザイン

コンセプトを実現するため、平塚駅周辺地区全体を見渡し、中心となるエリアを設定するなど、骨格を示し、メリハリのある整備等のイメージを示しています。

第4章 まちづくりの 方針

グランドデザインをもとに将来像を描くために必要となる考え方を整理して7つの方針として示しています。

第5章 通り・エリアの 将来イメージ

7つの方針を踏まえ、主要な通りやエリアの将来像を具現化するためのイメージを示しています。このイメージをもとに様々な主体が関わりながらまちづくりを進めるための「理想像」を示しています。

第6章 実現に向けて

将来構想を実現するための取組みや進める順序、推進体制を示しています。また、実現に向けた本市や様々な主体の関りを示しています。

平塚駅周辺地区将来構想

第1章 これからのまちづくり

5

この章では、平塚駅周辺地区の現状を踏まえるとともに本市や国の動向等を捉え、まちづくりを進めるために必要な視点を示しています。

1. 平塚駅周辺地区の現状

(1) 平塚駅周辺地区の成り立ち

■歴史のある通り・商店街

現在の東海道本通りは、東海道平塚宿をもとに発展してきた通りです。また大門通りでは、東海道が整備される江戸以前より平塚八幡宮の参道として人々が往来し、本市で最初の商店街となりました。

その後、戦後復興により土地区画整理事業が進むとともに、市街地が更新され市内外から多くの買い物客で賑わう新しい商業地が形成されました。

このように平塚駅周辺地区には、東海道や商都としての歴史を有する通り・商店街があります。

平塚宿の江戸見附の説明版



■湘南ひらつか七夕まつり

平塚市は海軍火薬廠があったことから大空襲で壊滅的打撃を受け、旧市街地の7割が焦土となってしまいました。復興が一段落した昭和25年7月『復興まつり』が開催され、この復興まつりを引き継ぐかたちで、昭和26年7月に、平塚商工会議所、平塚市商店街連合会が中心となって第1回七夕まつりが行われました。

平塚駅周辺地区の湘南スターモールや紅谷パールロードを中心としてまつりが開催され、今日では、日本を代表する七夕まつりとなっています。

湘南ひらつか七夕まつりの様子



平塚駅周辺地区将来構想

第1章 これからのまちづくり

1. 平塚駅周辺地区の現状

(2) 平塚駅周辺地区の人口の特性

平塚駅周辺地区では、近年、人口が増加しています。

年齢階層別にみると、年少人口は減少していますが、概ね子育て世代となる生産年齢人口、また老年人口は増加しており、平塚市全体と比べてみると、増加率が高いことが特徴と言えます。

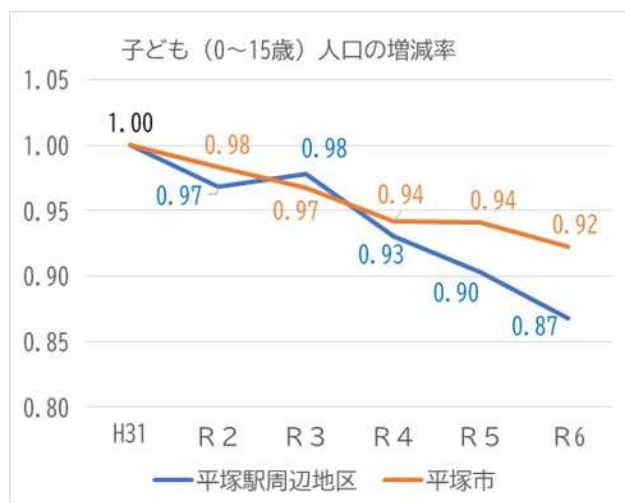
注：各年次の1月1日の人口
(住民基本台帳)

平塚駅周辺地区は、
次の大字の人口を集計
見附町、紅谷町、明石町、
宮の前、宝町、八重咲町、
代官町

人口の増減(5年間)



年少人口(0～14歳)の増減(5年間)



生産年齢人口(15～64歳)の増減(5年間)



老年人口(65歳以上)の増減(5年間)



第1章 これからのまちづくり

1. 平塚駅周辺地区の現状

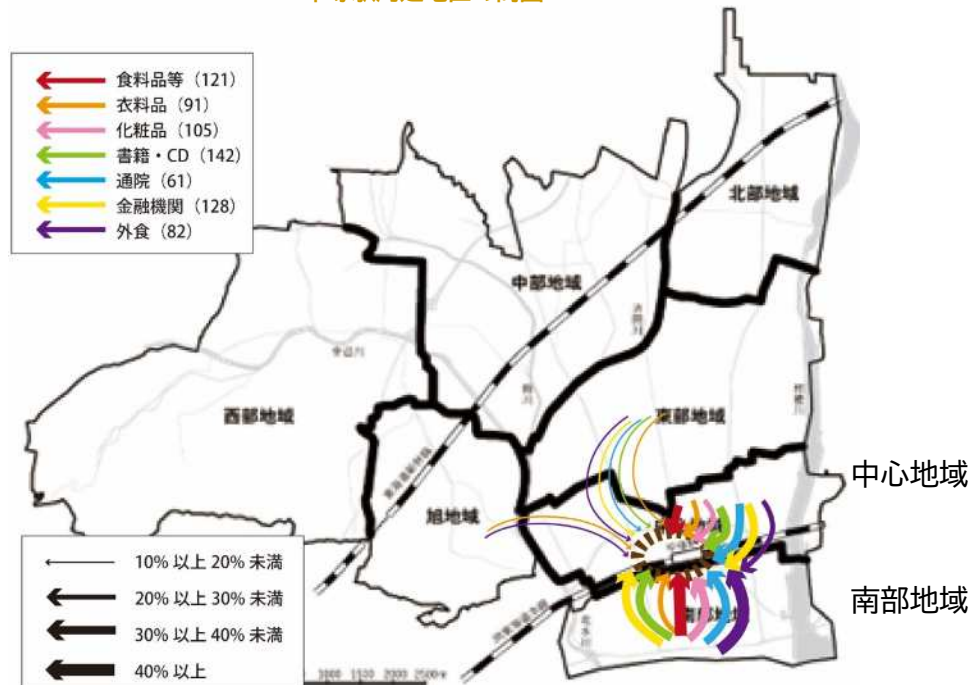
(3) 平塚駅周辺地区の商圈

市民アンケートの結果をもとに、市民に買物で来訪する地域を分析しました。

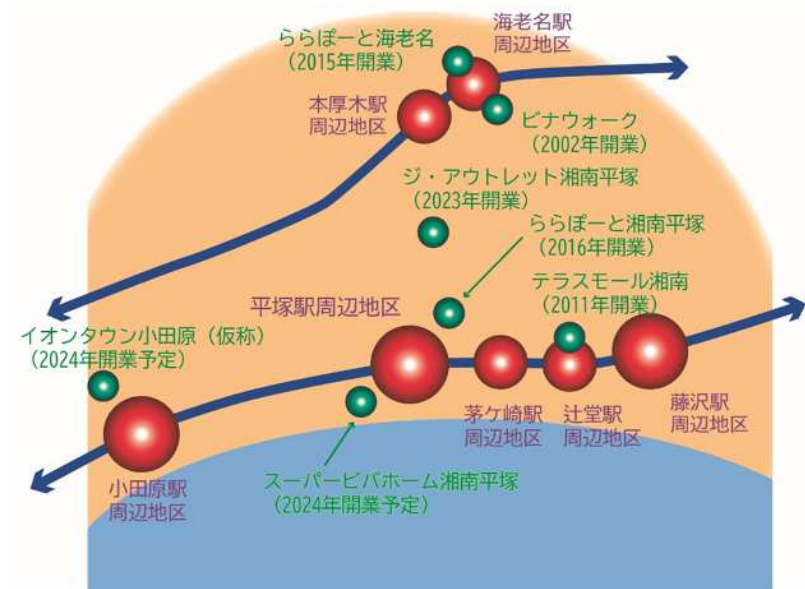
平塚駅周辺地区の主な商圈は中心地域、南部地域となっています。

かつては広域から買い物客を集める「商都」と呼ばれる地区でしたが、近年は郊外や近隣市へショッピングセンターの立地も影響し、近隣居住者が足を運ぶ商業地となっています。

平塚駅周辺地区の商圈



郊外や近隣市へのショッピングセンターの立地状況



平塚駅周辺地区将来構想

第1章 これからのまちづくり

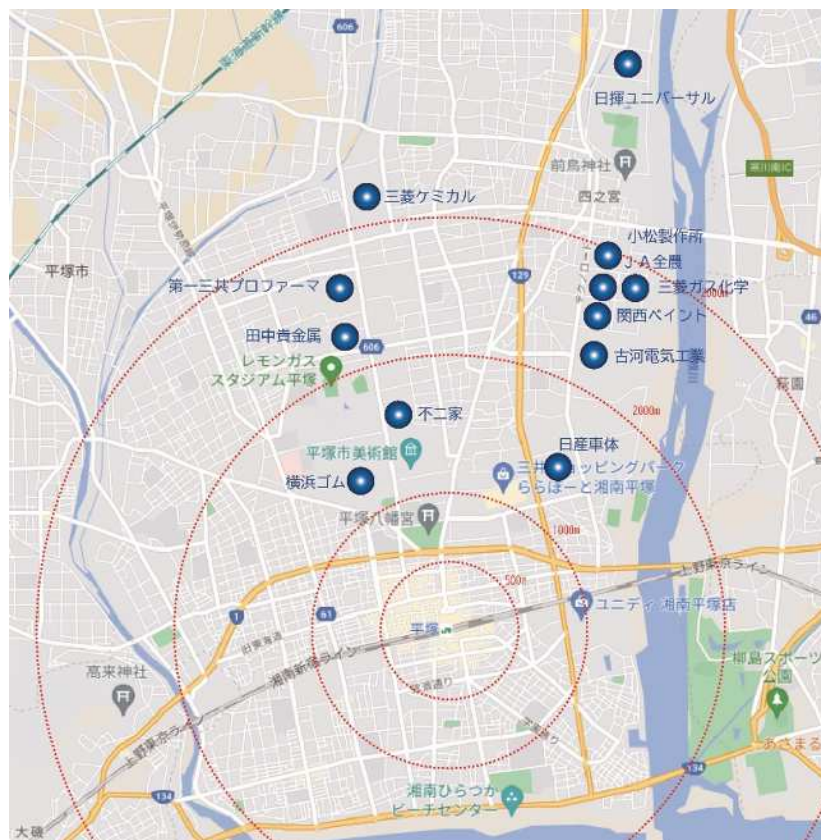
1. 平塚駅周辺地区の現状

(4) 平塚駅周辺地区周辺の企業立地

平塚市には、製造業を含む多くの企業が立地しています。

これらの企業は、平塚駅から1kmから3km程度の比較的近い範囲に多く、平塚駅周辺地区と近接しています。

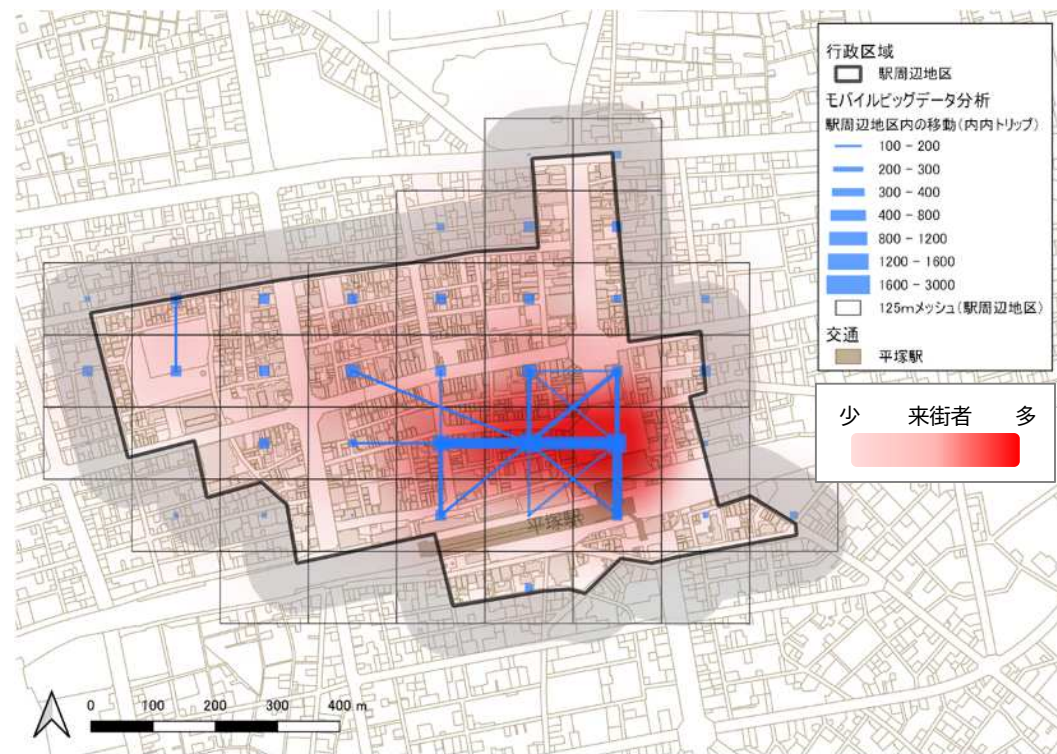
主な企業の立地状況



(5) 来街エリア

携帯電話の位置情報をもとに、2019年(令和元年)の休日の来街者が集積するエリアと、平塚駅周辺地区内の移動が多い区間を分析した結果、概ね、平塚駅の北口、西口と湘南スターモールの間のエリアが来街者、移動ともに多くなっています。

来街エリア(2019年(R4年)休日)



平塚駅周辺地区将来構想

第1章 これからのまちづくり

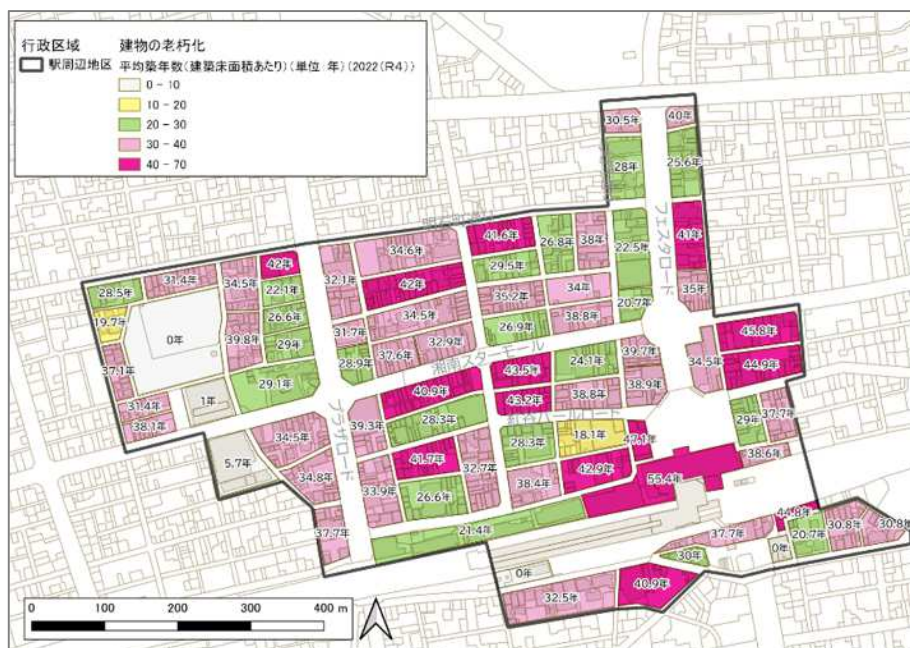
1. 平塚駅周辺地区の現状

(6)建物・都市基盤の状況

■建物の老朽化

平塚駅周辺地区内には、建築してから年数がたっている建物が多く、建替えを進めないまま年数が経過すると建物自体の魅力が低下し空きビル・空き家が増加する可能性があり、更に老朽化が進むと火災時による延焼や地震による倒壊等の危険性も高まります。

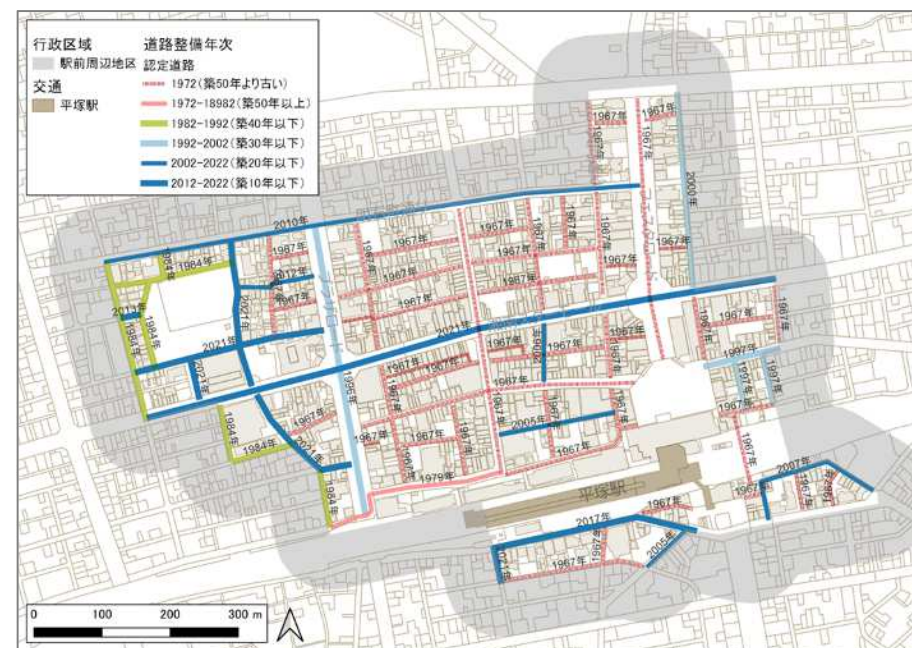
街区別地区年数(2022年(R4年))時点



■都市基盤の老朽化

平塚駅周辺地区内の道路や公園は整備されてから年数がたっているものが多く、このまま年数が経過すると、老朽化した道路や公園は、人々の利用ニーズに合わないものになっていく可能性があります。

道路整備年次



平塚駅周辺地区将来構想

第1章 これからのまちづくり

1. 平塚駅周辺地区の現状

(7) 地域主体のまちづくり

平塚駅周辺地区内には、ひらつか市民活動センターが立地し、市民活動の拠点となっています。

また、中心市街地の活性化を目的に、2019年に「平塚まちなか活性化隊」が組織され、活動しています。

さらに商店会ごとに、様々な活動が企画・実施されています。夕暮れ酒場を開催している浜大門通り新光会は、2023年度にかながわ商店街大賞特別賞を受賞しました。

このように、平塚駅周辺地区では地域主体のまちづくりが進められています。

平塚まちなか活性化隊



商店街主催の主な活動

湘南スターモール	湘南スターモール	ハッピープロジェクト
紅谷パールロード	湘南ひらつか駅前骨董市	
大門通り	ぼんぼり市、大門市、渡し初め	
浜大門通り	夕暮れ酒場	
しんしく通り	平塚西口しんしく横丁プロレス	

夕暮れ酒場の様子



第1章 これからのまちづくり

11

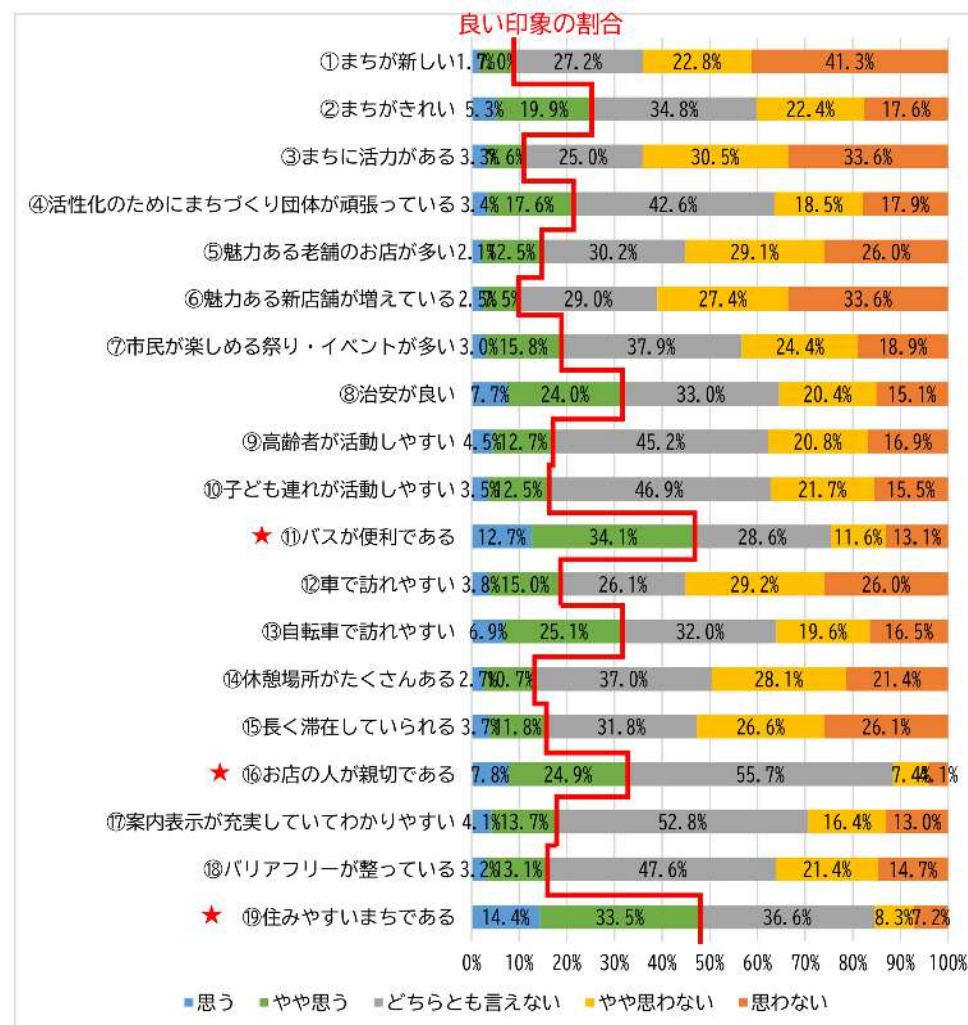
1. 平塚駅周辺地区の現状

(8)市民や商業者のニーズ

■平塚駅周辺地区の印象

市民アンケートによると、まちの新しさやきれいさなどの雰囲気、店舗やイベント等の魅力、高齢者や子育て世代等の多世代の活動、休憩場所、滞在機能をはじめ、多くの項目で、良い印象よりも悪い印象の割合が高くなっており、全体として平塚駅周辺地区の評価は低い状況です。

平塚駅周辺地区に対する市民の印象(市民アンケート結果)



★：良くない印象（やや思わない、思わない）よりも良い印象（思う、やや思う）の割合が多い項目

平塚駅周辺地区将来構想

第1章 これからのまちづくり

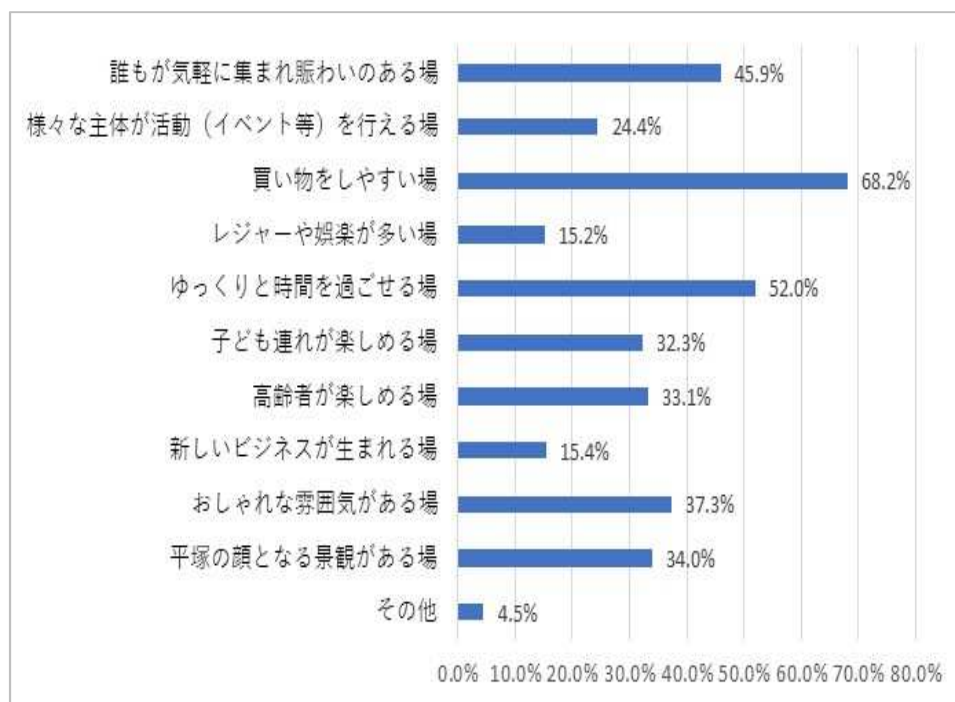
12

1. 平塚駅周辺地区の現状

■市民が平塚駅周辺地区に求める機能

市民を対象としたアンケートの結果、「平塚駅周辺地区に求める機能」としては、買い物環境、ゆっくりと時間が過ごせる場が回答者の50%以上となっています。

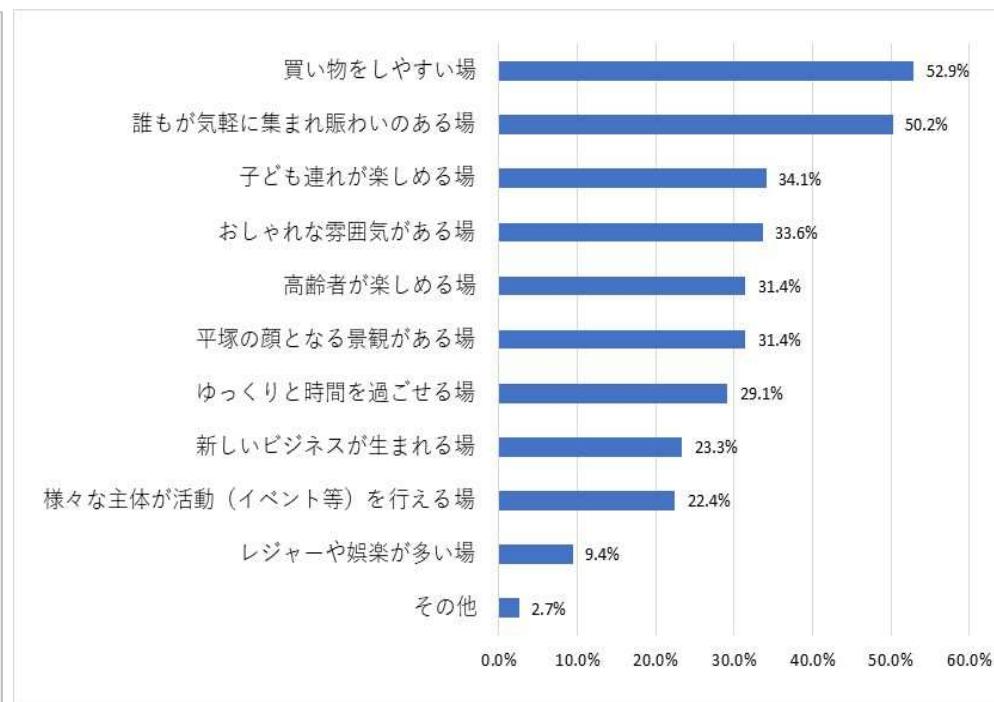
平塚駅周辺地区に求める機能(市民アンケート結果)



■商業者が商店会に求める機能

商業者を対象としたアンケートの結果、「商店会をどのような場にしたいか」については、買い物しやすい場、誰もが気軽に集まれ賑わいのある場が、回答者の50%以上となっています。

商店街をどのような場にしたいか(商業者アンケート結果)



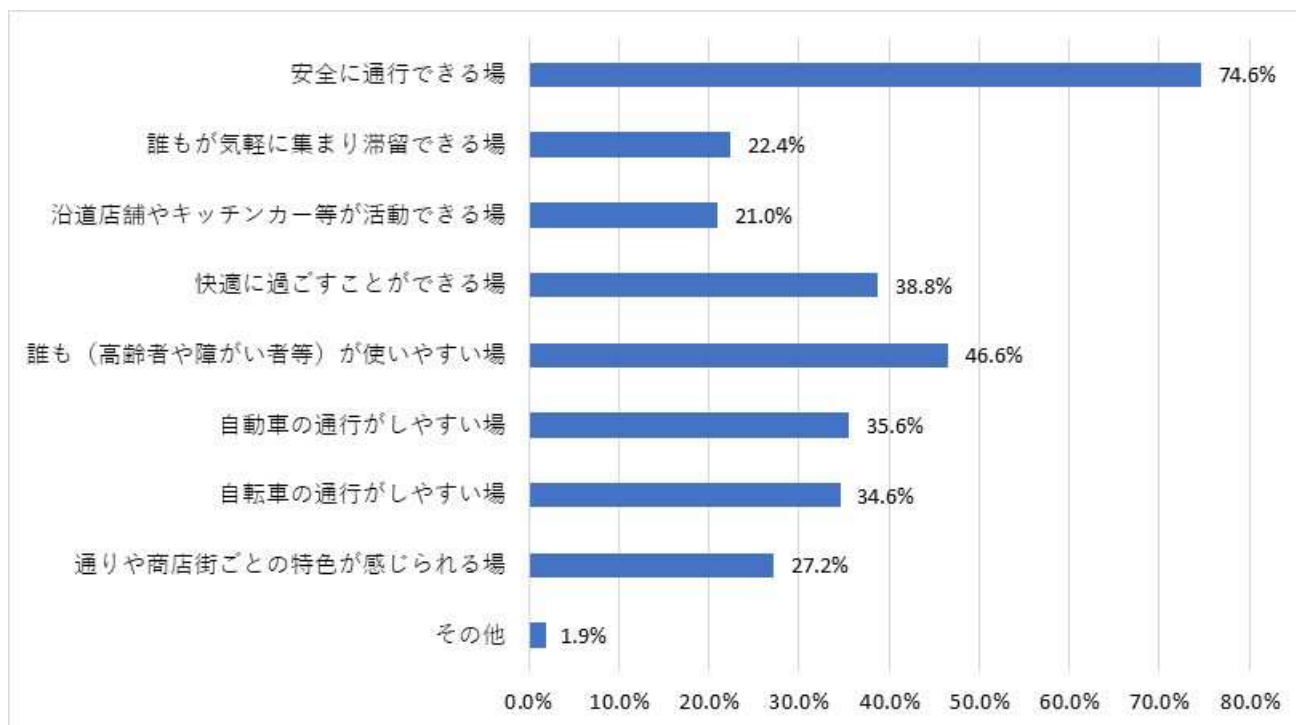
第1章 これからのまちづくり

1. 平塚駅周辺地区の現状

■歩行環境に関するニーズ

平塚駅周辺地区の道路等においては、概ねバリアフリーの基準に合った整備がされていますが、市民からの意見では、「安全に通行できる場」を求める声が回答者の50%以上となっています。

平塚駅周辺地区の道路に求める機能(市民アンケート結果)



第1章 これからのまちづくり

2. まちづくりの視点

(1) 上位・関連計画から整理した視点

将来構想の検討にあたっては、市全体から見た平塚駅周辺地区のまちづくりの方向性に整合する必要があるため、上位・関連計画における位置づけを整理しました。

個性・魅力の創造

東海道をはじめとする歴史性や、古くから根付いている商店街等の地域経済の資源を活かして、“平塚駅周辺らしさ”を備える個性・魅力あるまちを目指す。

賑わい・交流の創出

平塚市の中心市街地、湘南都市圏域の広域拠点として、交流を促進し、賑わいが継続されていくまちを目指す。

地域経済の活性化

平塚駅周辺地区が地域経済の拠点として、商店や企業等の経済活動の基盤となり、事業の継続や新たなしごとづくりに資するまちを目指す。

まちの機能更新・多機能化

コンパクト・プラス・ネットワークの南の核として、まちなか居住を推進するとともに、様々な人の交流等を生むための多様な機能を備えることを目的とし、まちの機能更新により、土地の高度利用・有効活用を図り、併せてエリアの価値向上を目指す。

共生社会の実現

子育て環境をつくり、高齢者の暮らしやすさを備え、また、ユニバーサルデザインを重視した誰もが活動しやすいまちを目指す。

安全・安心の実現

防災や防犯の機能を強化し人々が安全・安心に、暮らし、働き、活動できるまちを目指す。

(2) 新たなまちづくりの視点

将来を見据え、国や世界規模の政策として進められている新たなまちづくりを踏まえ、本市で取り入れるべき新たなまちづくりの視点を整理しました。

まちの価値の向上 ウォーカブルなまちづくり

まちの交流・滞留機能、エリアの価値の向上を目指して、居心地が良く歩きやすいまちづくり、歩行者や自転車優先の道づくりを進める。

生活様式の変化への対応 新しいライフスタイルへの対応

新型コロナウイルス感染拡大等、近年の様々な社会経済状況の変化は、人々のライフスタイルにも影響を与えている。ライフスタイルの変化に柔軟に対応し、まちの機能、空間、サービスを充実させていく必要がある。

都市のDX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進 スマートシティ・自動運転社会

AI、IoT等の新技術、官民データをまちづくりに取り込み、地域の抱える課題解決や新たな価値を創出するために有効な都市の姿で、まちづくりとしては、交通、環境・エネルギー、防災、防犯等の分野での効果が期待されている。特に、交通の分野では、交通事故の抑止や高齢者の移動支援、公共交通の維持等を目的に、制度整備、技術開発が進められており、近い将来、自動運転社会が到来する。

環境・持続可能性の実現

カーボンニュートラル・グリーンインフラ活用の推進

世界的な社会課題となっている気候変動の緩和策として、脱炭素社会の実現に向けた取組みが必要不可欠であり、エネルギー効率の高い建築、環境負荷の小さい交通体系、循環型、脱炭素型、自然共生型など、都市づくりにおいても工夫が必要となっている。加えて、世界的にSDGsの目標に向かった取り組みや、環境や持続性に配慮した投資が進められていることから、都市開発においてもこれらを考慮し進める必要がある。具体的な方策として、ヒートアイランド現象への対応や防災、まちの快適性向上などの様々な課題へ対応するため、道路、公園、宅地等の樹木、芝生、その他の緑等（グリーンインフラ）を都市のシステムとして活用していく必要がある。

第2章 まちづくりのコンセプト

15

この章では、社会の変化等の将来を見据えた平塚駅周辺地区の役割を示すとともに関わる方の合言葉となるようなコンセプトを示しています。

1. 平塚駅周辺地区の役割

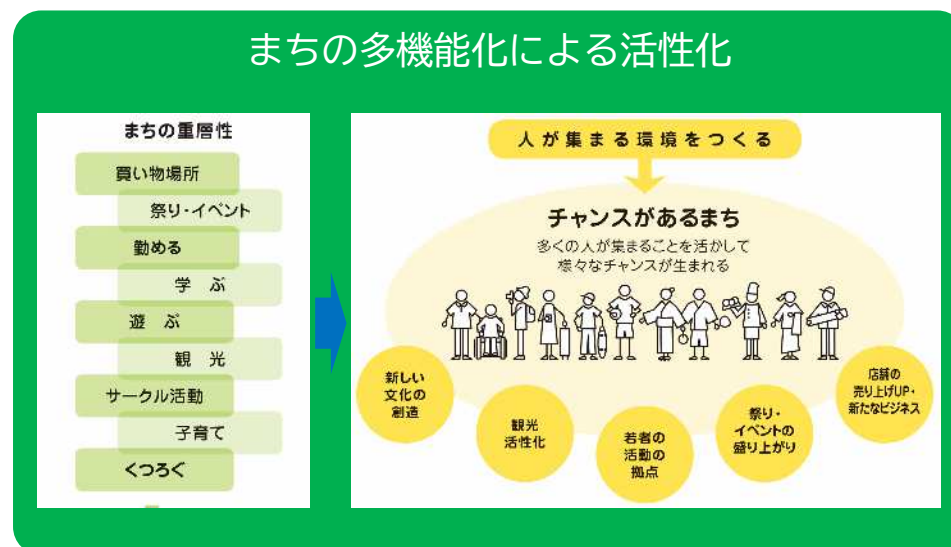
平塚駅周辺地区の商店街は、これまで市内外の買い物客等で賑わい「商都平塚」と呼ばれるほど商業集積が進んだ地区でしたが、近年、近隣市の駅周辺地区や郊外へのショッピングセンターの出店、Eコマースの普及等の影響を受け、商業集積の優位性が低くなっています。

また、市民アンケートの結果においても、平塚駅周辺地区の商圈は、周辺の地区に限られていることが明らかになっており、商業の拠点としての役割は小さくなっているといえます。

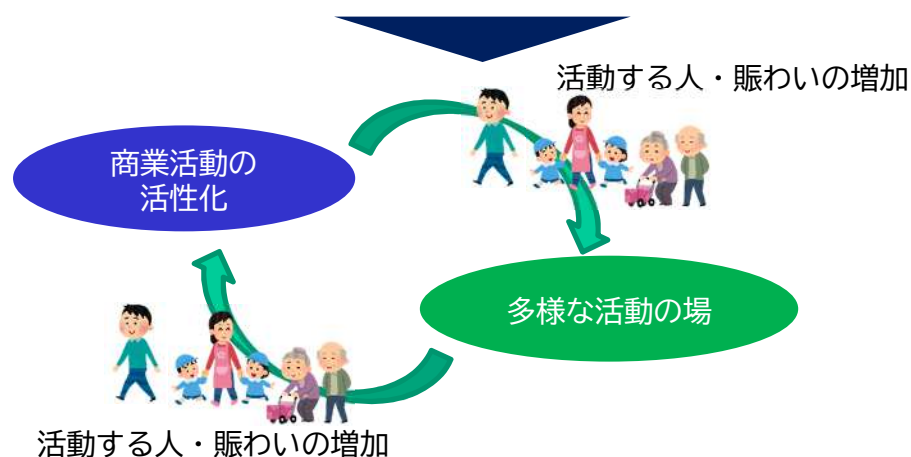
さらに、新型コロナウイルスの影響により生活様式が変化し、生活圏や移動範囲が身近になるなど、ライフスタイルに変化が表れているとともにマンション建設や工場の土地利用転換により、地区及び周辺での居住者が増加しています。

このような社会情勢等の変化を捉え、商業の集積、交通の利便性に加え、ライフスタイルの変化や生活の利便性の必要性を踏まえ、多機能化により、活動する人・賑わいの増加につなげ、店舗の開業や新規事業のチャンスがあるまちにすることで、活性化を進めていきます。

多機能化によるまちの活性化のイメージ



出典:みんなのまちづくりNOTE(まちなかの活性化)



平塚駅周辺地区将来構想

第2章 まちづくりのコンセプト

16

2. まちづくりのコンセプト

平塚駅周辺地区をみんなのリビングに
～充実した日々の中にときめきを感じられる
それぞれが居心地のよいまちづくり～

住む人、働く人、遊びに来る人、事業を始める人など、誰もがそれぞれのお気に入りの空間や体験を見つけることができるように、平塚駅周辺地区を家の中で家族が集まり、くつろぎ、様々な目的に合わせて過ごす“リビング”に見立てます。

平塚駅周辺地区では、市民、事業者、行政が連携して多様な活動、交流が展開される空間や仕組みを地域資源や多様な人材、新技術等を活用して創出することで、様々なひとが快適に安心して過ごし、充実した日々の中にときめきを感じられる居心地のよい“リビング”のようなまちを目指していきます。

みんなのリビングのイメージ

『くつろぐ』



『遊ぶ』



『集まる』



『食べる』



『働く』



平塚駅周辺地区将来構想

第3章 グランドデザイン

この章では、コンセプトを実現するため、平塚駅周辺地区全体を見渡し、中心となるエリアを設定するなど、骨格を示し、メリハリのある整備等のイメージを示しています。

17

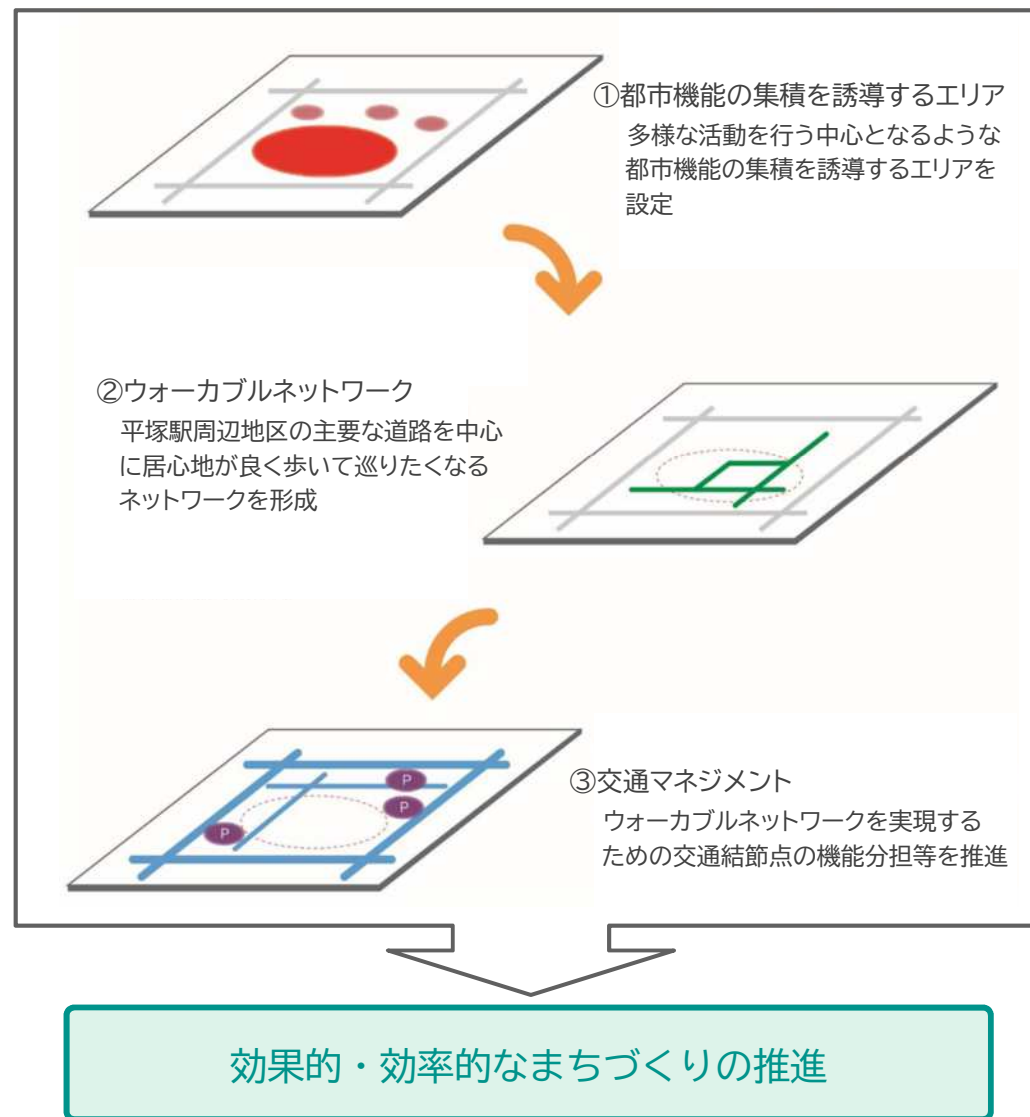
1. グランドデザインの役割

まちづくりのコンセプト「平塚駅周辺地区をみんなのリビングに」やライフスタイルの実現に向け、効果的、効率的なまちづくりを進めるためグランドデザインを設定します。

平塚駅周辺地区は広いため、一律に同様のまちづくりを進めるのではなく、右図のようにグランドデザインとして、現状のまちの特性や来街先、地区内の移動状況等を踏まえて、多様な活動を行う場の中心となる「①都市機能の集積を誘導するエリア」を設定します。

このエリアを中心に「②ウォーカブルネットワーク」の形成を進め、さらに交通施設やルール等の「③交通マネジメント」を設定することで、メリハリをつけてまちづくりを進めることが有効です。

グランドデザインの考え方



平塚駅周辺地区将来構想

第3章 グランドデザイン

18

2. グランドデザイン

(1) グランドデザインの考え方

■都市機能の集積を誘導するエリア

平塚駅周辺地区全体に交流や賑わいを創出する都市機能を誘導します。

特に平塚駅周辺地区内の駅前広場や公共施設などがあり、人の移動が活発なエリアを「都市機能の集積を誘導するエリア」として設定し、エリア内の主要な道路同士の交差点や駅前広場、公共施設が立地するポイントを「交流・賑わいづくりの中心となる都市機能を誘導する地点」として、積極的に交流・賑わいを創出する都市機能の誘導を図ります。

■ウォーカブルネットワーク

平塚駅周辺地区内の主要な道路には多様な活動が誘発される滞留空間を確保するとともに、平塚駅周辺地区から隣接する施設やスポットへのつながりを強化し、居心地が良く歩いて巡りたくなるウォーカブルネットワークを形成します。

ウォーカブルネットワークに位置付けられた道路では、積極的にみどりを配置することで木陰があるみどり豊かな道路空間を形成します。

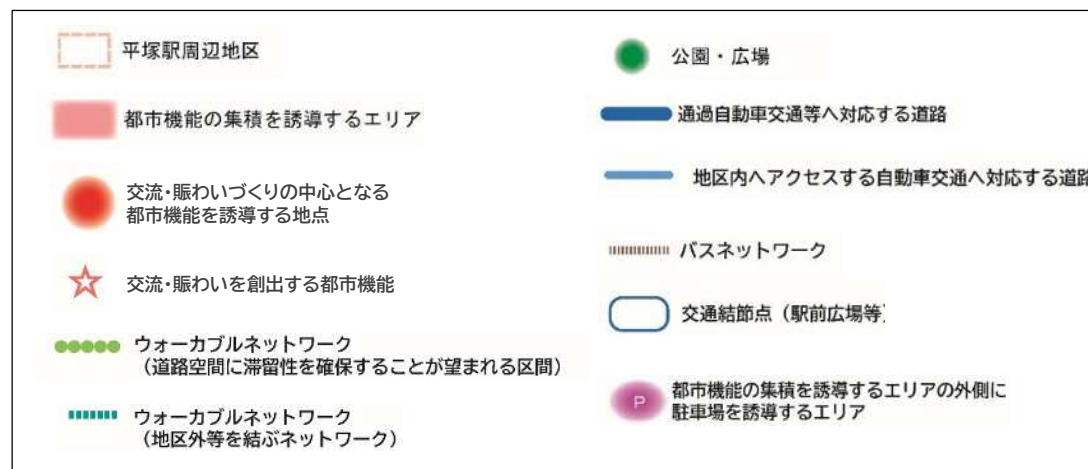
■交通マネジメント

ウォーカブルネットワークを形成するために、駅前広場など交通結節点の機能分担や駐車場・駐輪場を適正に配置するとともに、誰もが歩きやすい歩行環境の整備と地域内交通を充実させることで、平塚駅周辺地区へのアクセス性と地域内の円滑な移動性の確保を図ります。

グランドデザインのイメージ



凡例



コラム

●都市機能とオープンスペース等の活用によるコミュニティプレイスの創出

まちには、都市機能としてカフェや図書館、会議室などの様々な「スペース(空間)」があります。それらの「スペース(空間)」でサークル活動や教室、企業のPR、マルシェ等のイベントなど多様な活動が行われることで人々の愛着や交流が生まれ、人の居場所「プレイス(場所)」となります。

このような場所を「コミュニティプレイス」といい、建物の中に限らず、公園や広場等の外のスペース(空間)もその1つとなることが考えられます。

● 空き店舗を活用したコミュニティプレイスの創出

平塚まちなか活性化隊が運営する「まちなかベースきちきち」は、空き店舗を活用し、活用しやすいコミュニティプレイスとして運営されており、サークル活動、教室、企業のPR、マルシェ等のイベントなど、多くの目的で利用されています。

利用者の交流会の様子



マルシェの様子



● 建物の建替えに伴うコミュニティプレイスの創出

建物の建替えに合わせて、ビルの前にスペースをつくるのと同時に、その運用方法をセットで検討することで、コミュニティプレイスとして活用していくことが考えられます。

建物敷地を活用した
コミュニティプレイスの創出例

